

平成30年度大学院教育学院博士後期課程入学試験問題
外国語（日本語） 学校教育論講座

（100点満点）

以下の問題のすべてに答えなさい。問題1と問題2とで、解答用紙を分けて答えること。

問題1 下の文章は、「教育可能性」に関するものである（原文に省略や表記・表現の変更を加えた箇所がある）。この文章を読んで、次の問いのすべてに日本語で答えなさい。

1. 下線部Aとは、どういうことか。文章中の語句を用いながら、文章中に挙げられている例でやや詳しく説明しなさい。

（文章中の文を、そのまま抜き書きして用いるのは避けること。）

2. 下線部Bのように言えるのは、なぜか。文章全体の趣旨を踏まえて、文章中の語句を用いながら、やや詳しく説明しなさい。

（文章中の文を、そのまま抜き書きして用いるのは避けること。）

〔出典 相馬伸一『教育的思考のトレーニング』（東信堂、2008年）、

pp. 94-96, 98-99, 103-104；原文は縦書き〕

問題2 下の文章を読んで、次の問いに日本語で答えなさい。

この文章で、著者は学校で教える内容を「術」「学」「観」の三つに分けている。著者の言う「術」「学」「観」とは何かを、外国語としての英語という教科の教育からの例や、外国語としての英語が関わる例を自分で挙げながら、わかりやすく説明しなさい。

(例を挙げる際には、英語も用いてかまわない。)

[出典 遠山 啓『競争原理を超えて ひとりひとりを生かす教育』

(太郎次郎社、1976年)、pp.163-168,259-260 ; 原文は縦書き]

平成 30 年度大学院教育学院博士後期課程入学試験問題
外国語（日本語） 生涯学習論講座

（100点満点）

問題 以下の文章を読み、筆者が感じている二つの「抵抗感」について、要約
しなさい。

出典：岡真理子『記憶／物語』、岩波書店、2000年 pp.29-35

平成30年度大学院教育学院博士後期課程入学試験問題
外国語（日本語） 教育社会論講座

（100点満点）

問1 別紙1の文章を参考にし、絶対的貧困と相対的貧困の違いについて日本語で説明しなさい（200字～400字）。

問2 別紙2は東京新聞（2018年1月25日）掲載の記事である。これを読み、報道内容の要点を日本語で述べなさい（200字程度）。

別紙 1

出典：岩田正美「貧困の概念」仲村優一他監修「エンサイクロペディア社会福祉学」2007年 中央法規出版 pp856-857

別紙 2